

第25回群馬産業技術センター評議会 議事概要

日時 令和3年3月8日

場所 オンライン開催

議事

- (1) 令和2年度活動報告
- (2) 第7期中期計画(案)

- (1) 令和2年度活動報告について

A委員

- ・成果が出ていることがわかった。
- ・機能性包装材料は、一般に安くはない。安価なものを作ろうとしているようなので、ぜひ商品化して頂きたい。
- ・Gアナライズ事業は、科学的根拠に基づいて進めていることがわかった。群馬県産を上手にPRして頂きたい。
- ・中小事業者への対応について、例えば、「技術相談無料」をもっとPRして敷居をさげる努力をしたらどうか。

副所長

- ・機能性包装材料は、安価なフィルムを使って高機能化というコンセプトをもって取り組んできた。A委員には引き続きアドバイスを頂きたい。
- ・Gアナライズ事業については、温泉等と関連付けた健康ツーリズムを計画するなど、群馬県産のPRを徐々に始めている。また、他県の食材を分析し、ベンチマークを明確化していく。

所長

- ・無料の技術相談を入口として、中小事業者の利用率向上、技術支援につなげていきたい。また、産業技術センターPRのための動画コンテンツを今後増やしていく方針である。

B委員

- ・全国公設試利用率15年連続1位の中で、食品関係の利用割合はどの程度か。
- ・食品業界は中小企業が多い。敷居を下げる工夫についてどのような考えか。

・産学官の連携の会議において、産業と学識をマッチングさせるために、官である産業技術センターはどのような働きかけができるのか。また、群馬県もイノベーションハブの推進をお願いしたい。地元の身近な先生に参加してもらい、中小企業の多い食品業界の支援に力を入れてほしい。

・技術特許について、中小企業のフォローをお願いしたい。

所長

・10%程度で、以前よりかなり多くなってきている。

副所長

・産業技術センターを知らない企業がいまだ多いため、R2年度も出前技術相談会を行った。コロナ禍ということもあり、R2年度の参加企業は3件であったが、共同研究につながりそうな案件もある。このような活動を継続して情報発信をしていく。また、コロナ禍が収束したら、サクセスストーリー集を持って飛び込み営業を再開したい。

所長

・イノベーションハブの立ち上げを計画しており、点と点をつなぎながら適切な先生がいれば、支援枠に入ってもらいたいと考えている。

・群馬産業技術センター内にある発明協会では、無料で特許検索など可能である。また産業技術センターには特許専門員がいるので、中小企業をフォローしていきたい。

議長

・敷居が高いという点については、産業団体の会合に産業技術センター職員を招待し、産業技術センターの案内をしてもらう等の手段も考えられる。

C委員

・競争的獲得資金など、もう少し数字が伸ばせないか。また、群馬県での研究成果にとどまらず、国際的な論文投稿、海外の学会参加につなげられないか。

所長

・外部資金に取り組む職員の比率が少ない。しかしながら、新たにできたニューノーマル創出支援補助金など積極的に支援しているため、上向いている。

D委員

- ・群馬高専の教育においても産業技術センターは主導的立場で、企業の課題解決に貢献してくれており感謝している。また、改革の取り組みが伝わってきて感銘を受けている。
- ・査読論文数や講演会の成果を示した方が良いのではないか。
- ・産業技術センターには評価系、つまり分析、見える化、数値化が最も期待される場所かと思うので、評価系を強化して頂けるとありがたい。

所長

- ・査読論文数や講演会の成果も出ているので示していく。
- ・ハイブリッド測定技術という、装置を買えばできるのではなく、工夫がないとできない測定技術の開発を進めており、評価系も強化している。

E委員

- ・AI技術を中小企業に導入するための策について
- ・デジタル変革の具体的な策について

東毛センター長

- ・市販ソフトは高価なため、オープンソースを使う方向が一つの手段である。ソフトの作り方も含めてSNSを使った情報発信を検討している。また、製造ラインを作るSIerと、安価なAIラインを作る方法について検討していく。

所長

- ・どのようなご要望があるか、現状掴めきれていないので、もし評議員の方から具体的な要望が頂ければ、意見集約し実行していきたい。

(2) 第7期中期計画(案)について

議長

- ・量から質への変革と敷居を下げるという考えが伝わってきた。

A委員

- ・質の面、そして研究員のモチベーションを上げるために、査読論文執筆および論文博士号取得を推奨するのはどうか。

所長

- ・職員によって目標を変えることを考えており、補助金支援は顔の広い調整官、若手に対しては、地域NO.1コア技術を獲得し、その証明のために査読論文執筆、特許取得などを推奨している。職員皆のやる気が上がるように、目標設定できるようにしていく。

F委員

- ・非常事態宣言の中で目標達成、すばらしい。第7期中期計画の3つの施策は重要でタイムリーである。
- ・現状の技術を水平展開し、ニッチ市場に参入する場合、技術で既存企業に勝たないと参入できない。そのため、例えば医療の微細加工であれば現状のトップレベルを知るための人材のネットワークを作って頂けるとありがたい。その市場の技術レベルを知ることができ、参入時の参考になる。

所長

- ・情報提供には、企業とのパイプをどれだけ持っているかが重要であるため、パイプ作りを管理職中心に推進したい。すべての分野をカバーするのはすぐには難しいため、もう少しお待ち頂きたい。

議長

- ・グローバルな競争のために、学会参加などは最新の先端レベルを知ることができるため有意義であり、それを所長は推進している。学会参加者の中でのパイプ作りも期待できる。

以上